

## 有識者意見の概要及び意見に対する見解

1. 調査研究課題名 国土交通行政に資するビッグデータの活用に関する調査研究	
2. 有識者意見の概要及び見解 有識者：大澤幸生氏 東京大学 教授 工学部システム創成学科・学科長 / 工学系研究科システム創生学専攻・副専攻長 橋本大也氏 データセクション株式会社 取締役会長 / データエクステンジコンソーシアム理事長	
意見の概要	意見に対する見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>データから価値創造を図るには、様々なデータを重ね合わせた上で解析することが重要であるが、何を予測できるのか、何が得になるのかは、事前には分からないことが多い。それを知るためには多大なコストが掛かることが明らかになっているが、その探索に掛かるコストを低減させる枠組みが、今後必要とされる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IMDJ という手法を用い、データの関係性を明示した上で、データ利活用によってどのようなことが可能になるか、「ビッグデータを活用した政策検討」として、本調査研究において試行した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の保有するデータを公共資産として活用できた場合のメリットに着目するのはいいが、企業はデータの取得にコストをかけ、経営戦略に活かすために取得している。そのような企業努力を考慮に入れず、データの供出を無理強いすることは、データの利活用を推進する上では逆効果になることもあるため、注意が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアを創出する上で、社会全体が高いコストを払っているとすれば、産業の競争力にとってマイナス要因となることもあり得る。協調することで、各者が恩恵を受けられるのであれば、協調領域と競合領域の線引きについても議論されるべきである。協調領域は公共財の性質を持つので、この線引きに政府が関与することが望ましい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>IMDJ は参加者間の交渉によってデータの活用方策を見出す「データ市場」である、ということが理解される必要がある。このデータ市場では、単にデータを取引するのではなく、取引を前提としてイノベーションを促す場であるため、交渉の結果として何ができるのかを知ることができる。</li> <li>IMDJ はデータ市場の実装法であるが、この点が参加者間で共有されていなかった可能性があるため、事前説明による意識合わせが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IMDJ はあるルール化された検討プロセスの中でワークショップを行うものであるが、ルールの徹底のために、参加者全員に個別に事前説明を行った。しかしながら、ルールの徹底が図られず議論がスムーズに進まないところが見られた。反省点を踏まえて、第4章のまとめとして、「IMDJ を効果的に行うための留意点」として考察をとりまとめた。</li> </ul>